

② 仮据付けと取付け管長さの測定

- 下水本管に支管を取付けた後、直管、曲管およびインポート部を仮置きします。
- インポート部が所定の勾配、深さに設置できるように、曲管の設置位置と取付け管の長さを決めます。
- 特に、曲管の取付け高さはインポート部の設置深さに影響しますので、位置決めは正確に行ってください。

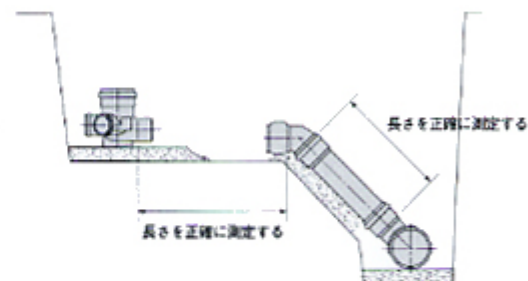


図9 取付け管の長さの測定

③ 据付け

- インポート部は、上面を水平にしたとき、流入側、流出側が規定の勾配になるように設計されていますので、必ず上面を水平に据付けます。
- 作業にあたっては、公共ますに取付け管を仮接合し①所定の深さになるか、②勾配が正しいか(インポート上面が水平であること)を確認し、調整してください。

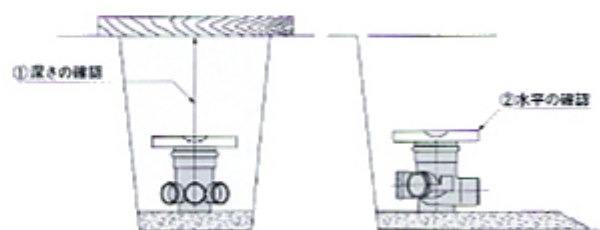


図10 水平と深さの確認

宅地ますの据付け

① 位置決めと排水管長さの測定

- インポート部の位置決めは、下げ振り等を用い、排水管と一直線になるようにするとともに、排水枝管の接続も考慮して行います。
- 据付け位置が決まったら、深さと勾配の確認を行い、インポート部を仮置きして排水管の長さを決定します。

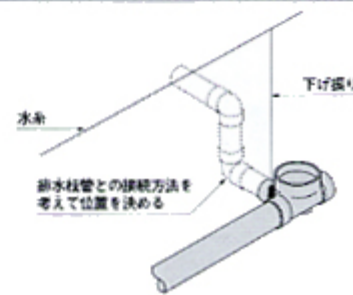


図11 芯だし

② 据付け

- インポート部の上面を水平にしたとき、流入側、流出側が規定の勾配になるように設計されていますので(兼用タイプは除く)、必ず上面を水平に据付けます。(図12-1)
- 水平の確認は、流水方向だけでなく、左右に倒れがないか、直交する方向も確認してください。
- 「兼用タイプ」には勾配を設けていませんので、排水管の勾配に見合った傾きをもたせて据付けてください。(図12-2)

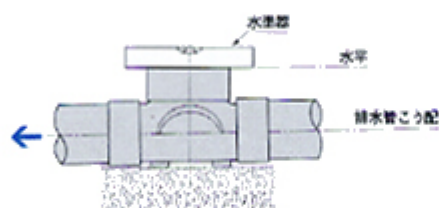


図12-1 水平の確認

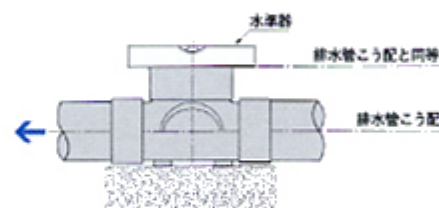


図12-2 兼用タイプの据付け

接 合

管の切断

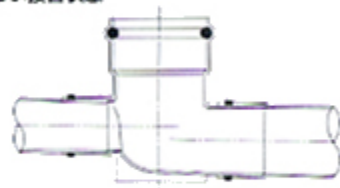
- 管の切断にあたっては、管の斜め切りや管端の食い違い等があると、凹部ができ、汚物溜まりの原因となりますので、管の切断は正確に行ってください。

管とインパート部の接合

ゴム輪接合

- 接合する受口および差し口をウエスで拭き、油、水、砂、泥等を取り除きます。
- ゴム輪が溝に正確に納まっているかを確認します。納まっていない場合は、ゴム輪を取り出し、溝を拭いてから再装着します。(P101 図3-2)
- 接合する管の差し口端に差し込み標準位置を記入します。
- 滑剤をゴム輪表面および差し口部に、適量均一に塗布します。
- 管軸を合わせて標準位置まで挿入します。

●正しい接合状態



●悪い接合状態

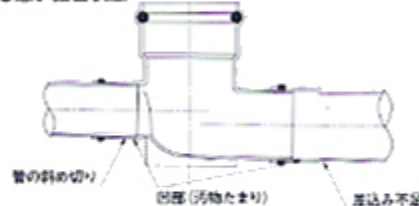


図13-1 接合状態例

接着接合

- 接合する受口および差し口をウエスで拭き、油、水、砂、泥等を取り除きます。
- 接合する管の差し口端に差し込み標準位置を記入します。
- 塩ビ管専用接着剤を受口内面と差し口外面に、刷毛で薄く均一に塗布します。(図13-2)
- 管軸を合わせて、管をインパート部受口の奥部まで挿入し、そのまましばらく保持します。
- はみ出した接着剤は、ウエスで拭き取ります。

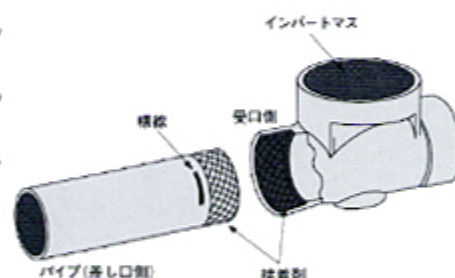


図13-2 接着剤の塗布

立上り部の接合

- 立上り部は、硬質塩化ビニル管を使用します。立上り部は、インパート部受口下部から地表面(または計画地表面)までの高さを測定し、ふたの有効高さ(防護ふた使用時は15cm)を差し引いた長さで切断します。(図14-1)

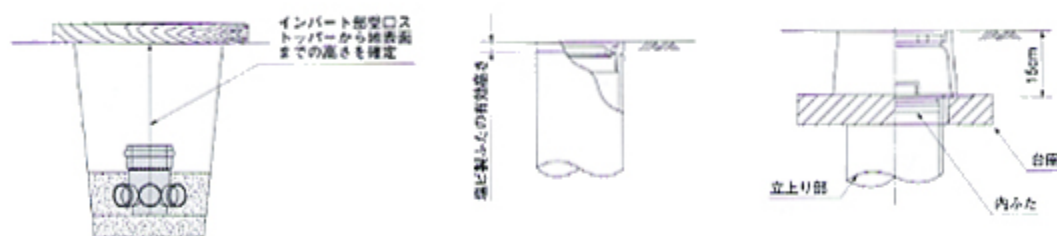


図14-1 立上り部の高さ測定

- 切断面に生じたばりや食い違いを仕上げるとともに、管外周を面取りしマジックインキなどで標線を記入します。(図14-2)
- 立上り部の下部およびインパート部の受口部をウエスで拭き、油、木、砂、泥等を取り除きます。
- 立上り部の下部およびインパート部受口に、ゴム輪型受口では滑剤を適量均一に塗布、接着型受口では接着剤を均一に塗布します。

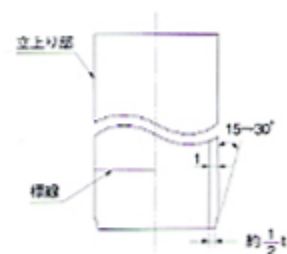


図14-2 立上り部の面取りと標線の記入

- 立上り部をインパート部受口に標線位置まで挿入します。接着型受口の場合は、挿入後そのまましばらく保持し、はみ出した接着剤は拭き取ります。なお、挿入後はインパート部が傾いたり、ずれたりしないように丁寧に埋戻しを行い、水準器で垂直を確認してください。(図14-3)



図14-3 立上り部の垂直確認

ふたの接合

- 立上り部にふたを接合します。
なお、地表面が不明確な場合は、立上り部を長めに接合し、土砂が入らないようにふたを仮置きします。地表面が定まった後、立上り部上部を切断して調整します。(図15)



図15 ふたの設置

埋戻し

- 埋戻しは砂や良質土を用い、インパート部が移動したり、立上り部が傾いたりしないように、周囲を均等に木だこ、足踏み、突き棒等で、何層かに分けてよく突き固め、ふたと地表面が同一になるように仕上げます。(図16)
- なお、発生土を用いる場合は、石、ガレキ、木片など、インパート部に悪影響を及ぼすような固形物を必ず取り除いてください。



図16 埋戻し方法